

UNCRD/UNDESA 主催サイドイベント
「持続可能な都市開発のための資源効率の推進」
三ツ矢副大臣冒頭挨拶（骨子）

- UNCRD の本部が名古屋に所在することのメリットを活かし、日本政府はその設立以来 UNCRD との緊密な協力を維持。地域開発が持続可能な開発達成の重要な要素の一つであることから、このサイドイベントは持続可能な開発目標とポスト 2015 年開発アジェンダに係る議論への重要かつ時宜を得たインプットとなることを期待。日本と UNCRD 及び UNDESA との堅固なパートナーシップが、本日のイベントも含め多岐にわたる活動の促進を通じて一層強化されることを期待。
- 今後数十年に想定される都市人口の増加に効果的に対応していくため、UNCRD はリオ+20 の成果文書「我々の求める未来」に沿って様々な都市問題に対応してきている。日本は、とりわけアジアにおける EST（環境的に持続可能な交通）と 3R（リデュース、リユース、リサイクル）のイニシアティブにつき、UNCRD と積極的に協力してきている。我々は、以上のような持続可能な都市管理の主要な構成要素における継続的な協力についてのコミットメントを再確認する。
- 防災は、持続可能な都市開発計画において優先づけられるべきもう一つの重要な側面。UNCRD は兵庫行動枠組とリオ+20 の成果文書に従って、持続可能な開発と貧困撲滅の文脈で防災に取り組んできた。世界中での強靱な社会の建設を円滑化するために、日本は、東日本大震災等の災害の経験から得た教訓を共有し、また我が国が有する専門的知識や技術を最大限に活用しつつ、防災分野の協力を継続していく。この会場の参加者皆様に対し、来年 3 月に仙台で開催される第 3 回国連防災世界会議への参加を歓迎する。
- 本日、太田稔彦・豊田市長と今永博・北九州市副市長がパネリストとして参加されていることは喜ばしい。この 2 つの都市は、世界の他の都市のリーダーたちが資源効率性の重要性に留意しつつ持続可能な都市開発促進のための効果的な政策とツールを特定するために、素晴らしい模範となるものと確信。他のパネリストの発表も楽しみにしている。
- 本イベントが、開発途上国がより持続可能な社会へ移行することを支援する UNCRD の重要な役割と活動についてのヴィジビリティを国際的なレベルで一層高めることに資するよう期待。

（了）